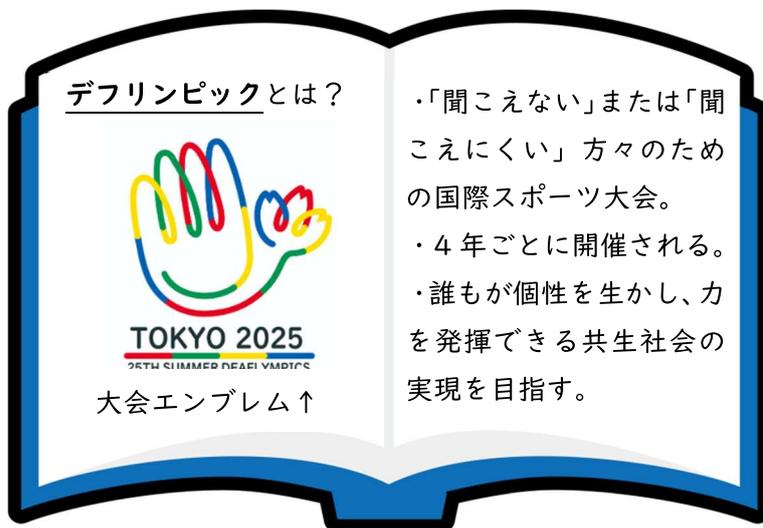


リハビリティ通信

100周年のデフリンピックに言語聴覚士が業務応援で参加しました。

2025年11月15日～26日の12日間、「第25回夏季デフリンピック競技大会(東京2025デフリンピック)」が東京都で開催されました。当センター言語聴覚士も業務応援で参加し、選手の出場資格のための聴力検査の業務を行いました。



<出場資格、ルールや特徴> **情報保障の整備**
大会出場資格: **聴力損失が 55 デシベル以上**の選手
(補聴器や人工内耳等を外した状態)

◎大会でのコミュニケーションは

国際手話により行われること

◎スタートの合図や審判の声などは、

視覚情報(ライトの点滅や旗)に置き換えること

●応援業務場所・内容

勤務場所は大会運営本部やメディアセンター等、選手のための大会運営拠点を兼ねるデフリンピックスクエア(国立オリンピック記念青少年総合センター)でした。(以下「デフスクエア」と記載。)

業務内容は選手の大会出場資格判定のための各種検査を行うことでした。各国選手やコーチは手話言語話者・音声言語話者等使用言語はそれぞれでした。その為、検査について確認・説明する際には各種翻訳機の利用や、リレー通訳(複数の言語通訳を介すこと)を利用しました。人によって伝わるコミュニケーション方法も異なり、特にジェスチャーは国によっては正しく伝わらないこともありました。伝え方を試行錯誤しながら実践していく貴重な機会になりました。

また期間中、デフスクエアは一般公開もされており、コミュニケーションを円滑にするための機器の体験コーナーや国際手話や選手応援のための“サインエール”(見てわかる応援)を学べるコーナーなどもありました。筆者自身も国際手話とサインエールの体験をしました。新しい表現を学べて楽しかったです。



当センターにも様々なコミュニケーション方法の方々がいらっしゃるの、今回の業務で学んだことを活かしていきたいと思います。

(リハビリテーション科 言語聴覚士 石井)

参考HP:

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025:スポーツ庁、東京2025 日本選手団 | 全日本ろうあ連盟